

2021年4月果実概況

北日本の降水量はかなり多いが、全国的に日照時間は多く、気温高で推移した。

各地で気温が高く天候が良いことから桜の開花が進み、上旬に満開になるところも多く、またスギ花粉の飛散も早かった。

果実全体の入荷量は前年比 119%、価格 467 円(前年比 93%)。りんご・かんきつ類の出荷は品質重視で進む中、ハウス物(みかん・ぶどう・桃)の出荷が前年より少し早く、下旬にかけて始まる。いちごは気温上昇とともに荷動きは鈍くなるものの、入荷量は多かった。果菜類においては前進出荷が影響し、上旬は少なく、中旬から増量した。結果、4月の入荷量は過去5カ年でもっとも多くなった。

ハウスみかんは入荷 88%、2,470 円(112%)。コロナ禍による業務需要が停滞しているが、大分産は生産者減少、愛知産は作付若干減を受けて、入荷量は減少を受けて価格は底上げ。

かんきつ類は入荷 99%、価格 341 円(106%)。かんきつ類総じて前進出荷傾向から入荷は少なかった前年並みも、平年に比べ1割減。

りんご類は入荷 138%、価格 255 円(61%)。「王林」は小玉かつ前進出荷の傾向も、「サンふじ」は豊作基調にあり、中旬から始まる有袋物も不足はなし。貯蔵量が少なかった前年に比べ潤沢な出回り。

びわは入荷 142%、価格 2,044 円(102%)。長崎産ハウス物は前年に比べ出荷が早く、千葉産は台風被害で少なかった前年を上回るも、平年比減。

おうとうは入荷 100%、価格 6,964 円(121%)。ハウス物のため総体で数量は少ないものの、好天を受け前進出荷傾向。コロナ禍で果専門店・百貨店販売ができなかった前年は価格低迷したが、本年は平年まで回復した。

いちご類は入荷 123%、価格 1,016 円(88%)。3番果は関東・九州産地ともに上中旬にピークを迎えたが、気温が高く小玉果の発生が高かった。4番果も連続しているため数量は潤沢にあり、価格は1割安。

メロン類は入荷 141%、価格 691 円(108%)。例年通り、3月下旬から熊本産春メロンの出荷が本格化。前年の出荷ペースは早まったが、本年産は平年並みに推移した。茨城産「オトメメロン」も同時期にピークを迎える。4月は春系品種に切替わると標準的な大きさに戻り、上位等級の比率が高まった。入荷量は前年比4割増も、緊急事態宣言が発令された前年よりは上向きな動き。

すいか類は入荷 151%、価格 326 円(115%)。各産地とも前年よりさらに前進出荷の傾向にあり、4月前半と後半で入荷量に差があったが、入荷量は前年を上回り、玉流れは前年並み。業務需要は前年同様の動きのため今一つだったが、気温上昇とともに荷動きは上向き、前年より高値で推移した。

国産マンゴーは入荷 98%、価格 5,381 円(156%)。主力宮崎産は開花が早く、前年より早い出荷。増量ペースは前年並みだが、市場集約もあり4月入荷量は前年並み。鹿児島産も前年より早く、出荷量は平年並み。総体入荷量は前年並みだが、緊急事態下だった前年よりも消費が伸び、「母の日」等のギフト需要の高まったことで価格は前年比 5 割高。

【輸入果実】レモンは入荷 163%、価格 337 円(123%)。アメリカ産入荷増。パイナップルは入荷 135%、価格 216 円(109%)。中国への輸出禁止となった台湾産が大幅増。マンゴーは入荷 177%、価格 885 円(118%)。メキシコ・タイ産ともにコロナ禍で減少した前年の 2 倍近く増量。